

神田小の誇りは「明るい笑顔」と「元気なあいさつ」：すべては神田の子の「希望をはぐくむために」



学校だより

No. 5 さいたま市立神田小学校
令和4年 8月26日発行 Tel (853) 4377
URL: <http://jinde-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標

○人間性豊かで 21世紀を
たくましく生きる神田の子
・かしこく・たくましく・あたたかく

夏の思い出 ～「なぜ」を問う～

校長 米玉利 優子

子どもたちの明るい挨拶と元気な笑い声が響き、神田小学校の校舎に生命が吹き込まれました。子どもがいない学校ほど、殺風景でつまらないものはありません。思わず一人ひとりに「お帰りなさい。」と言いたくなります。保護者の皆様の愛校活動のお陰できれいになった下駄箱に子どもたちのかわいい靴が並び、きれいになった窓に子どもの笑顔がうつっています。神田小学校の2学期がスタートしました。

17歳の夏休み。その頃の私は、これから自分は何をしたいのか、どう生きたいのか、生きるとは何かと考え、まさに青い春の時期を過ごしていました。ふと目にしたボランティア募集のポスターが気になり、障害をもつ方々が仕事をし、生活をしている施設でのボランティア活動に参加してみたのです。手が不自由な方が、口や足を巧みに使って作業している真剣な眼差し。足の不自由な方が車いすを上手に使いこなし、荷物を運ぶ姿。工夫しながら食事をしている笑顔。いつもニコニコと笑いながら話しかけてくれるあたたかい声。そして「ありがとう」と言ってくれるやさしい心…共に生活する中で、思わず涙してしまったことがたくさんありました。

施設で暮らす方々と私たち高校生が深夜まで「自分はなぜ生まれてきたのか」「何のために生きるのか」という話をしたことがありました。施設に暮らす多くの方が口々に「僕はこの世に必要なから生まれてきたんだよ。」「ここにいるみんなは選ばれて生まれてきたのだから、自信をもたなくちゃね。」「生きるって1つずつできることを増やしていくことじゃないかな。」「笑顔で一生懸命に生きていればそれで十分だよ。笑顔は人を元気にさせるからね。」「優しさをもって生きれば、きっと誰かの役に立てるよ。」と話しているのです。私はただ黙って頷きながら、泣いていました。あの夏、私には尊敬できる友達がたくさんできました。就職をする際、福祉の道に進もうか教師になろうか迷った時も、友達は言ってくれました。「あたたかい人がたくさんいる日本にしたいね。未来をつくるのは子どもたちだよ。」と。そして、今の私があります。17歳の夏。なぜ生まれてきたのか、なぜ生きるのかを問うた夏。

「なぜ学校に行くのか」「なぜ勉強をするのか」「なぜ友達は大切なのか」「なぜ宿泊学習に行くのか」…日本の未来をつくる子どもたちには「なぜ」を考え、答えを模索しながら歩むことも大切であると感じます。だからこそ、これからも子どもと共に歩む教師でありたいと思います。

「保護者の方々は夏休みの終わりに、なぜ校舎をきれいにしてくれたのかな」も子どもたちと教職員がしっかりと考え、そして、感謝の思いを行動に表せるよう2学期も教職員一同、心を一つに努力してまいります。保護者の皆様、並びに地域の皆様には、御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。